

平成 16 年度

第 9 号

SEUシニアクラブ会報

自 立
相互扶助
社会貢献

事務局:長野県諏訪市大和 3-3-5 セイ-EP ソン労働組合内 TEL:0266-52-0714 Email:seu_scnt@moon.odn.ne.jp

現役からの近況報告

暑い日が続いていますが、シニアクラブの皆様におかれましては、益々お元気でご活躍のことと思います。現役組織の近況を報告します。

●夏季一時金の支給状況

6月30日に待望?の夏季一時金が支給されました。ここ2年間は業績低迷などで年間4ヵ月台の低水準でしたが、今年は何とか5ヵ月台に回復させることができました。(年間5.3ヵ月:年末2.5ヵ月、夏季2.8ヵ月の支給)来年は更に高い水準が確保できるよう頑張っています。

●年金・退職金制度の変更

代行返上完了に伴い、従来のセイコーエプソン厚生年金基金は解散し、新たに「セイコーエプソン企業年金基金」が発足しました。また、退職金

の制度変更も実施され、4月からは「確定給付 1/2、確定拠出 1/2」という形になりました。従来は、会社が全て運用してくれていましたが、これからは退職金の半分は自分自身で運用することになります。低金利の時代、どんな金融商品を選ぶのがいいのか、皆さん頭を悩ませています。

●三洋エプソンイメージングデバイス(株)の発足について

既に新聞報道等でご存知のことと思いますが、10月にSEのディスプレイ事業と、三洋電機のディスプレイ事業を合併し、「三洋エプソンイメージングデバイス」という会社が発足します。これに伴い、SEのディスプレイ所属の皆さんは、全て新会社へ転籍となります。(SEを退社し新会社へ入社する)

「会社分割法」という法律を使うため、労働条件はSEのものが引き継がれますので、当面は組合も従来通りの組織運営になりますが、将来に向けてどのような体制にすべきなのか、これから検討していくことになります。(執行委員長:溝口健二)

次回土曜サロン 7月25日(土)開催

6月の土曜サロンのテーマは万華鏡作りでした。先生は会員の武川さん。すでに武川さんが十分な下拵えをしてくれてあったので作業は簡単!のぞき窓から眺めた万華鏡の世界は、宇宙空間に漂う無数の流れ星のようなものあり、また天空を乱舞する天女の舞姿のようなものもありで・・・ほんとかな?

とにかく自分のものが一番良くできたと、みんなで自己満足!楽しい土曜日のひとときでした。

万華鏡はいまブームで、東京銀座のあるギャラリーで展示会が催されているそうす。250万円のお値段が付いているものもあるとか…。なおこの日、松本の平林重義さんがA3の写真30枚あまりを、会場に展示してくれました。花・風景などを題材にした大作揃いで、そのすばらしさにみな感心。これからも時々展示していただくことにしました。

7月は24日(土)の午後1時~4時まで実施します。特にテーマを設けずダバリの時とします。何か人にご披露したいような“出し物”があったら、持ってお出かけ下さい。

諏訪退職者連合から マレット大会のお知らせ!

日 時 8月27日(金) 9:30~12:00

場 所 下諏訪高浜マレットゴルフ場

交流会 12:30~15:00 ゆうむ25

会 費 3,000円

*但しマレットゴルフ大会のみは会費不要です。

申し込み 7月25日までにご連絡下さい。

0266-53-1323 松沢利雄

0266-53-0537 河西邦夫

多くの皆様のご参加をお願いいたします。

津田やたろう(比例代表)
ご支援ありがとうございました

【事務局から】先月初めて広報をメール送信したところ、早速多くの会員から返信メールを頂き、それを契機にメール交換をする機会がありました。事務局から「河合さんの“ロサンゼルス便り”を手始めに＜リレー随想＞なるものを企画したいのですが」・・・!とお願いし、今回は酒井治信会員にご快諾を得、寄稿いただきました。

アイルランドの家庭

酒井 治信

私のホームステイしていたアイルランドの、「オ・サリバン」さん宅は、16歳の女の子を筆頭に3人の女の子と1人の男の子がいた。

アイルランドの家庭は、普通4人から5人の子どもがいる。国民の90%が敬虔なカトリック教徒であることにもよるが、子どもを大切にしている国であることには間違いない。

オ・サリバンさん宅の夕食は家族揃ってする。子どもたちは、その日の学校の出来事や先生の話をし、母親は、「それで、どうした」「それは先生が正しいよ」とか、子どもを暖かく見守りながら、教育している。兄弟喧嘩もやっている。長女は末っ子の行儀の悪さを注意している。昔の日本の家庭そのままである。

戦前の日本の家庭は子どもが5、6人いるのはざらであり、十郎、十一郎さんなんて名前の人や、末子さんなんて名前も、子沢山の家に生まれた文字通り名残りである。

ところで、今の日本の子ども数(今年4月1日現在、15歳以下)は、13.9%だそうだ。一人っ子の家庭がほとんどで、二人兄妹も珍しいくらいだ。いったい、何でこんな現象になってしまったのか。その問題を論じだすと、政治、社会、教育問題、年金問題に発展してしまう。

私の問題にしたいのは、少年少女の非行問題である。今や、非行を通り越して、殺人まで犯す時代と

なった。しかも、計画的犯行であり、殺意の恐ろしさや、死体にたいする恐怖心のひとかけらもないことの恐ろしさである。

この子ども非行の一番の原因は、家庭の崩壊ではなかろうか。今の日本の家庭で家族揃って夕食をとっている家はあるだろうか。父親は朝早くか、夜遅くまで、仕事々々。母親も、仕事持っていたり、趣味の会合等で、慌しく夕食をとり、子どもとは、ゆっくりと会話をしない、話を聞いてやらない。

私の子ども時代の夕食時を思い出して見ると、お父さんの帰りを家族が待っていた。お

父さんが来るまで、お預けをくっていたものだ。食事中は、黙って食べるのが作法だったが食事が終わるといろいろの話がでた。大人の世界の話もでた。泥棒の話や、「どこゝの息子がかぎ『結婚する』と騙して女から大金を巻き上げ、女に首のあたりを切りつけられた」という話もでた。そんな話の中から自然と善悪を親から教育されていたように思う。

アイリッシュは実に、フレンドリーで明るい。バスの運ちゃんも「オオ、モーニング、ジャパニーズ」なんて、乗車のとき声をかけてくる。日本の大人はどうであろうか。最近頭にきたのは、ATMを長々と使ってようやく出てきた女性。待っていた私にそっぽを向いて行ってしまった。「お待たせして済みませんでした」の一言がなぜ言えないのか。

アイルランドでは、大人がしっかりしている。だから、子どもが健全に育っている。日本の子どもを健全にするには、子どもの行動や、犯罪を云々いうよりは、まず、大人が健全な社会マナーを守り、親は自らの姿勢を正すことが先決だと思う。

酒井さんのWebページ <http://www.avis.ne.jp/~harunobu/>



【追伸】

このページは紙の広報には掲載されていません。メール配信の広報のみの限定版です。
メール配信だとこんな情報も掲載できるという試作版です。皆様のご意見をお寄せください。

広報 8 月号をテスト配信した折に、「有賀吉治」会員から受信状況の返信メールに添付して、素敵な「権現岳」の写真を頂きました。

独り占めにするのもったいなかったので皆さんにご紹介します。（有賀会員には無断ですみません）
広報も、メールでの配信だとこんな事も簡単に出来ますし、カラー写真できれいに见ることが出来ます。
ぜひ、皆さんの近況や作品を事務局にお寄せください。

